

## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月14日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント  
 コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 麻野 憲志  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5530-3055

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	40,083	△37.9	5,718	△75.5	5,878	△80.2	1,297	△92.2
25年3月期第3四半期	64,506	△8.7	23,356	△22.6	29,637	△14.6	16,667	△46.4

(注)包括利益 26年3月期第3四半期 13,816百万円 (△13.1%) 25年3月期第3四半期 15,905百万円 (△39.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	17.69	17.67
25年3月期第3四半期	226.15	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	212,359	175,756	82.5	2,386.68
25年3月期	218,197	163,393	74.5	2,216.09

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 175,143百万円 25年3月期 162,624百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	30.00	—	20.00	50.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年3月期の期末配当予想は未定としております。

### 3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,800	3.6	31,000	△13.6	30,700	△31.6	17,800	△35.2	242.56

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無  
② ①以外の会計方針の変更 ： 無  
③ 会計上の見積りの変更 ： 無  
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期3Q	80,195,000 株	25年3月期	80,195,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	6,811,154 株	25年3月期	6,811,154 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期3Q	73,383,846 株	25年3月期3Q	73,700,062 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(4) 追加情報 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社の主力事業であるパチスロ・パチンコ事業においては、昨年12月に大人気アニメの著作権を使用したパチスロ機『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』を市場投入し、当第3四半期連結累計期間における市場投入タイトルは合計で4タイトルとなりました。その他、パチスロシミュレーターアプリの配信などを行い、当第3四半期連結累計期間における売上高は40,083百万円（前年同期比 37.9%減）、営業利益は5,718百万円（前年同期比 75.5%減）、経常利益は5,878百万円（前年同期比 80.2%減）、四半期純利益は1,297百万円（前年同期比 92.2%減）となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りであります。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

#### ・パチスロ・パチンコ事業

当第3四半期連結累計期間においては、上期に販売した3タイトルの継続販売に加えて、昨年12月に大人気アニメの著作権を使用した『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』を市場導入いたしました。

このアニメは、日本市場におけるテレビアニメのブルーレイ売上で歴代上位を占める記録を残しているとともに、数多くのアニメアワードを受賞するなど幅広い層から人気を博しております。

『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』はそのコンテンツを起用したもので、12月の市場導入後ホールへの集客、売上に大きく貢献しました。また、ホール、ユーザーからのご要望を多数いただき、本年1月には新パネル「全員集合 ver.」を増産発売しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のパチスロ機の導入台数は約93.5千台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は38,369百万円（前年同期比 38.4%減）、セグメント利益は14,493百万円（前年同期比 51.4%減）となりました。

#### ・その他

メディアコンテンツ事業においては、遊技機連動ウェブサービス「ユニメモ」において、パチスロ機『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』専用のスマートフォン向け無料アプリ「-魔法少女まどかマギカ-ユニメモカスタムコレクション」の配信を行いました。

また、遊技機メーカー各社がそれぞれ運営する遊技機連動ウェブサービスのユーザーアカウントを共通化するサービス「Pachiport」に対応したことで、同一アカウントで「ユニメモ」の他、SANKYO社とビスティ社が運営する「パワコミ」及び「モバスロ・モバパチ」が利用可能となり、ユーザーの利便性が向上いたしました。

これらによって「ユニメモ」の利用者は順調に増加しており、遊技機の稼働に寄与しております。

その他、往年の名機『ミリオンゴッド』や『クランキーコンドル』、『コンチ4X』のスマートフォン向けシミュレーターアプリを配信いたしました。また、2012年に配信を開始したシミュレーターアプリ「バジリスク〜甲賀忍法帖〜II」がappStoreの「Best of 2013」に選出されるなど、いずれのコンテンツにおいても順調に利用者数を伸ばし、好評をいただいております。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社における第3四半期のスカパー！放送事業においては、SD放送からHD放送への移行が完了いたしました。サイマル放送事業では、7月から開始したケーブルテレビ最大手のJ:COMへ配信が好調に推移しており、その結果、サイマル放送事業の売上は前年同期に比べ約52%増となりました。また、インターネットやビデオ・オン・デマンドのコンテンツ配信事業においては、フィーチャーフォンのシェア縮小に伴い売上は若干減少しましたが、引き続きユーザーからは高い評価をいただき、Gyaoストア年間売上ランキングでは「嵐・梅屋のロッターズ☆ジャーニー」がパチンコ・パチスロ部門で2年連続の1位を獲得しております。また、Amazonの新規動画配信サービス「インスタント・ビデオ」等、配信先の拡充にも努めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他売上高は1,748百万円（前年同期比 21.4%減）、セグメント損失は1,979百万円（前年同期 セグメント損失857百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は75,526百万円となり、前連結会計年度末に比べ34,329百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が32,359百万円、受取手形及び売掛金が5,943百万円減少したことによるものであります。固定資産は136,832百万円となり、前連結会計年度末に比べ28,490百万円増加いたしました。これは主に建設仮勘定が10,227百万円、その他有形固定資産が11,912百万円、投資有価証券が3,558百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、212,359百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,838百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は35,192百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,983百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が3,564百万円、未払法人税等が13,533百万円減少したことによるものであります。固定負債は1,409百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,217百万円減少いたしました。これは主に社債が1,640百万円、長期借入金が4,676百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、36,602百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,201百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は175,756百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,363百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益1,297百万円及び為替換算調整勘定が12,588百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は82.5%（前連結会計年度末は74.5%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

・パチスロ・パチンコ事業

第4四半期においては、第3四半期中に販売活動を開始したパチスロ機「バジリスク〜甲賀忍法帖〜絆」を1月に市場導入いたしました。

当タイトルは、一昨年の市場導入後、ユーザーからの絶大な人気を得て、現在もホールにおいて非常に高い稼働を維持しているパチスロ機『バジリスク〜甲賀忍法帖〜Ⅱ』の後継機であり、従来のゲーム性を引き継ぎつつ、現在の市場の主軸となっているAT機能を新しく搭載したパチスロ機となっております。

ホールの期待感も非常に高く、初期ロットは完売し、さらなる要望に対応すべく、新パネルでの増産を決定し、現在も販売を継続しております。

また、1月よりパチスロ機『アナザーゴッドハーデス-奪われたZEUSver.-』の販売活動も開始しております。

当タイトルは、当社グループ人気のミリオンゴッドシリーズですが、昨年市場導入し人気を博した『ミリオンゴッド-神々の系譜-ZEUS ver.』とは対をなす存在として開発し、誕生しました。

当タイトルは、ミリオンゴッドシリーズの特性を搭載しながらも、“MAXパワーAT機”としてこれまでとは一線を画すゲーム性を構築し、新たな世界観を表現したパチスロ機となっております。

パチスロ機『アナザーゴッドハーデス-奪われたZEUSver.-』につきましても、初期ロットはすでに完売し、引き続き、増産分の販売活動を行っております。

・その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き高品質なシミュレーターアプリを提供できるよう研究開発を進めており、今後も継続して新作シミュレーターアプリを配信してまいります。また配信プラットフォームにおいても、appStore、GooglePlayはもちろんのこと、「ユニバ王国」での配信や「auスマートパス」、「グリパチ」への許諾など幅広く展開し、多くのユーザーに良質なコンテンツを提供できるよう努めてまいります。なかでも「ユニバ王国」においては、今後大幅なリニューアルを計画しており、会員制モバイルサイトとしてユーザーの皆様からの支持をいただけるようなサイト運営を行ってまいります。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社においては、放送事業では1月に2タイトルの新番組の投入を行いました。また、コンテンツ配信事業においても新たな配信先を追加する予定です。今後はケーブルテレビ業界を視野に入れた放送事業の拡大、パチスロ・パチンコ市場全体の活性化を図るための新規スキームによる番組制作ならびに、よりユーザーに支持されるような番組編成を行ってまいります。

当社グループがフィリピンで開発しているカジノリゾートプロジェクト「マニラベイリゾート」の建設工事の進捗としては、低層部の躯体工事に入っており、4階床部分まで躯体が立ち上がっております。

なお、「マニラベイリゾート」の開業予定についてですが、現地の地区全体のインフラ整備や自然災害の影響など複合的要因により、平成24年1月31日付プレスリリース「フィリピンにおけるカジノリゾートプロジェクト『マニラベイリゾート』のGroundbreaking Ceremony（着工式）実施のお知らせ」に記載のスケジュールからは変更となっております。新しい開発スケジュールについては、確定次第改めてお知らせいたします。

なお、第4四半期における当社の主力事業であるパチスロ・パチンコ事業は、好調に推移しており、1月に市場導入を開始したパチスロ機『バジリスク〜甲賀忍法帖〜Ⅱ』の導入および受注台数と、2月に導入を開始するパチスロ機『アナザーゴッドハーデス-奪われたZEUSver.-』の受注台数の合計は107千台を超えており、当第3四半期決算の導入台数93.5千台と合わせると、通期で200千台以上の導入となることが確定しております。

通期の業績予想については、今後のさらなる追加受注の状況を勘案する必要があるため、据え置いております。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	64,372	32,012
受取手形及び売掛金	11,694	5,750
有価証券	116	128
商品及び製品	545	1,287
仕掛品	5,352	7,636
原材料及び貯蔵品	19,206	21,629
繰延税金資産	1,806	194
その他	6,844	6,925
貸倒引当金	△83	△39
流動資産合計	109,856	75,526
固定資産		
有形固定資産		
土地	35,841	38,060
建設仮勘定	15,605	25,833
その他	7,087	19,000
有形固定資産合計	58,535	82,894
無形固定資産		
その他	617	833
無形固定資産合計	617	833
投資その他の資産		
投資有価証券	42,526	46,084
長期未収入金	1,224	983
その他	8,512	9,135
貸倒引当金	△3,074	△3,099
投資その他の資産合計	49,188	53,103
固定資産合計	108,341	136,832
資産合計	218,197	212,359

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,869	10,304
短期借入金	9,132	13,038
1年内返済予定の長期借入金	811	428
1年内償還予定の社債	2,060	1,640
未払法人税等	15,994	2,460
賞与引当金	215	66
その他	5,094	7,254
流動負債合計	47,176	35,192
固定負債		
社債	2,140	500
長期借入金	4,676	—
資産除去債務	185	370
その他	625	538
固定負債合計	7,627	1,409
負債合計	54,804	36,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	187,616	187,446
自己株式	△14,296	△14,296
株主資本合計	184,269	184,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△51	48
為替換算調整勘定	△21,593	△9,004
その他の包括利益累計額合計	△21,644	△8,956
新株予約権	22	22
少数株主持分	745	590
純資産合計	163,393	175,756
負債純資産合計	218,197	212,359

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	64,506	40,083
売上原価	27,389	17,946
売上総利益	37,117	22,136
販売費及び一般管理費	13,760	16,418
営業利益	23,356	5,718
営業外収益		
受取利息	38	316
受取配当金	7	64
持分法による投資利益	4,132	—
為替差益	2,098	48
その他	176	42
営業外収益合計	6,453	472
営業外費用		
支払利息	86	259
株式交付費	50	—
支払手数料	—	48
その他	35	4
営業外費用合計	172	312
経常利益	29,637	5,878
特別利益		
投資有価証券売却益	—	628
関係会社株式売却益	—	36
持分変動利益	228	—
その他	1	3
特別利益合計	229	667
特別損失		
投資有価証券評価損	55	—
関係会社整理損	—	27
固定資産除却損	4	2
訴訟関連損失	—	129
訴訟和解金	36	—
不正関連損失	257	—
その他	0	—
特別損失合計	354	160
税金等調整前四半期純利益	29,513	6,385
法人税、住民税及び事業税	12,822	3,744
法人税等調整額	168	1,512
法人税等合計	12,990	5,257
少数株主損益調整前四半期純利益	16,522	1,128
少数株主損失 (△)	△144	△169
四半期純利益	16,667	1,297



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,522	1,128
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41	99
為替換算調整勘定	△617	12,588
持分法適用会社に対する持分相当額	42	—
その他の包括利益合計	△617	12,688
四半期包括利益	15,905	13,816
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,049	13,986
少数株主に係る四半期包括利益	△144	△169

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(訴訟)

Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN, 以下「ウィン・リゾート社」という) 及び同社取締役会は、2012年2月18日、当社及び当社連結子会社であるAruze USA Inc. をウィン・リゾート社の株主として不適任であるとし、ウィン・リゾート社が、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾート社株式 (24,549,222株、発行済株式に対する持分割合：当時19.66%) を同日のウィン・リゾート社株式時価の約30%の割引価格で10年満期の長期受取手形を対価として償還することを一方的に決定し、実行したと主張しております。また、ウィン・リゾート社は翌19日、当社及びAruze USA Inc. に対して、当社取締役会長岡田和生による忠実義務違反を幫助したことによる損害賠償及び上記株式償還の決定について宣言的救済を求めた訴訟を提起しております。

それを受け、当社及びAruze USA Inc. は、2012年3月12日に、ウィン・リゾート社への投資を保全するために必要な法的措置の一環として反訴を提起し、ウィン・リゾート社による不適切な株式償還に対する差止め命令及び裁判所の宣言的救済を求めるとともに、不適切な株式償還及び詐欺的行為に関与したスティーブ・ウィン氏、並びにウィン・リゾート社の執行役員及び各取締役に対し、損害賠償等を求めています。

当該反訴手続は、今後ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続を経た後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るという過程となるため、最終的な結論が出るまで相当期間がかかることが予想されます。さらに、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾート社株式の償還に関する訴訟におけるディスカバリーは、2013年5月2日以前に行われた書面ディスカバリー要求を除き、2013年10月31日に、ネバダ州地方裁判所より6カ月の停止再延長の決定を受けております。従いまして、現時点では実体的判断の帰趨及び時期のいずれについても見通しがつかない状況であり、当社においては予測予断を持って判断を行わず、本反訴請求の結果事実の確定が成されれば、即時にそれに従って適正な処理と開示を行うことが妥当と判断しております。このため、本反訴請求の結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、前連結会計年度末よりウィン・リゾート社株式を取得原価で評価しております。